

中学生防災通信ボランティア令和3年度第1回訓練

日時 令和3年7月18日(日)

午後1時30分～

場所 幡豆いきいきセンター

つつじホール

- 1 挨拶

- 2 三ヶ根通信ボランティア紹介
メンバー自己紹介

- 3 中学生防災通信ボランティアメンバー自己紹介

- 4 中学生防災ボランティアの仕事について
 - ・災害で電話などが使えないときの無線機による情報伝達
 - ・幡豆地区の避難場所解説

- 5 通信訓練(トランシーバー操作実習)
 - ・トランシーバー操作についての解説
 - ・特定小電力トランシーバーで14班に分け送受信訓練実施
いきいきセンター室内と室外に分け班編制
建物外での班は、暑さ対策で水筒を持参

- 6 その他
 - ・「三ヶ根通信ボランティア」のホームページ
アドレス <http://hazu8zu.dip.jp/stv/>
活動予定、活動の写真を中心に掲載する

 - ・アマチュア無線について

 - ・アマチュア無線の雑誌紹介 月刊「CQ ham radio」
幡豆図書館に西尾市雑誌スポンサー制度によるアマチュア無線クラブによる寄付
 - ・第2回訓練 12月中旬午後予定

 - ・記念全員写真撮影

中学生通信ボランティアの仕事

令和3年7月18日

第1回訓練資料

三ヶ根通信ボランティア

1 災害などで一般の電話や携帯電話が使えないとき、幡豆支所その他の防災機関や幡豆地区内の避難所との連絡の仕事をする。

- ・避難所に避難したら、まず自分と家族の安全を考える。
- ・ボランティア活動ができるようなら、家族の了解を得てから活動に参加する。
- ・通信ボランティアであることがわかるように、ユニフォームを着る。
- ・責任者を見つけ、常にその人の近くにおいて連絡事項を受ける。
- ・必要ならばトランシーバーを手に入れる。(防災器具庫に入れてある)
- ・連絡の内容によっては人命に関わることもあるから、正確に聞き取り、正確に伝える。
- ・自分自身の安全を第一に考え、危険なことをしない。

2 幡豆地区の避難所

- ・東幡豆小学校
- ・いきいきセンター
- ・幡豆小学校

臨時に開設されることがある避難所

東幡豆保育園、東幡豆老人いこいの家、幡豆保育園、幡豆老人いこいの家、見影保育園、鳥羽保育園

○ 通 信 訓 練

トランシーバについて

- ・電力の大きなものを使用するのは無線従事者免許がいる
- ・免許のいないものは、電波の届く範囲がせまい。
- ・非常通信の場合は、生命が大切なので制限がない。

トランシーバーによる通信

- ・片通話である。携帯電話と違う。糸電話と同じ。
- ・PTTボタンを押しながら話す。PTTボタンを離して聞く。
PTT(P u s h T o T a l k)
- ・「どうぞ」と「おわり」が必要

通信をするとき

- ・はっきり落ち着いて話す。
- ・すぐには聞きなおせないなので、わからなかったところがあれば、そこを覚えておく。
- ・トランシーバは、なるべく垂直(立てて)にして、高い位置で使う。
- ・トランシーバのMIC部分に口を近づける。(離すとエコーがかかったような声になる)
- ・一度に多く話さない。
- ・特に語尾をはっきり言う。また子音は伝わりにくいのではっきり言う。
- ・誰が誰と話しをしているかがわかること。
- ・訓練のときは、必ず「**訓練**」の言葉を言う。

訓練内容

避難所 「本部、本部、こちらは()避難所の()です。
感度いかがですか? どうぞ」

本 部 「()さん、こちらは()です。
(感度の状況を伝える) どうぞ。」

感度の状況 ・感度良好です。
・少し雑音が入りますが、わかります。
・雑音が多くて聞きづらいです。
・ほとんど、了解できません。もう一度お願いします。

避難所 「〇〇さん、それでは〇〇避難所から、本部へ報告がありますので、送っていいですか? どうぞ」

本 部 「送ってください。どうぞ」

避難所 「**訓練** こちらは、〇〇避難所の〇〇です。 報告は、
(報告文を送る)

です。」以上です。どうぞ」

本 部 「了解しました。復唱します。

訓練 (受信文を読み上げる) これでいいですか? どうぞ」

避難所 「間違いありません。こちらは〇〇避難所でした。おわり」

本部 「()さん 了解しました。おわり」

報 告

避難所名	第 1 避難所 第 2 避難所 第 3 避難所 第 4 避難所 第 5 避難所 第 6 避難所 第 7 避難所 第 8 避難所 第 9 避難所 第10避難所 第11避難所 第12避難所 第13避難所 第14避難所
名 前	
時 間	時 分現在
避難者数	人
被害状況	/
負傷者	人
倒壊家屋	棟
ライフライン	/
電 気	停電 戸
電 話	不通話 戸
水 道	断水 戸
その他	簡潔(短文)に記入

送信 受信 時間

時 分

アマチュア無線について

(1) 電波で結ぶ世界

インターネット、携帯電話、衛星通信など、現代は実にたくさんの通信手段があります。特に、ネット上の通信技術の発達素晴らしいものがあります。このような発達を見られるようになったのはつい最近のことですが、電波を使った通信は古くからありました。そしてアマチュア無線も古くからありました。アマチュア無線家が先に通信技術を開拓した時代もあります。電話回線が今ほど発達する以前から、世界を電波で結びコミュニケーションを成立させていたのがアマチュア無線なのです。国境線を意識せず世界の人々と語り合えるアマチュア無線は、今の時代にもっと知られてほしいものです。

(2) 社会に役立つ活動

2011年の東日本大震災のとき、あらゆるライフラインが寸断され、ほとんどの通信手段がとだえた中、アマチュア無線家たちの連絡網が情報伝達や人命の救助に役立ちました。このような時にはアマチュア無線はたいへん有効な通信網である、と改めて見直されています。他にも多くの災害時にアマチュア無線は活躍しており、社会の役に立つボランティア活動として大きく注目を集めています。

(3) 無線従事者免許（第4級アマチュア無線技士）

アマチュア無線をするためには免許が必要で、二つの方法があります。

- ・ 国家試験 毎月一回日曜に名古屋市で受験できます。受験料5,100円と他に手数料など約2,500円が必要です。参考書や問題集を買って自分で勉強する必要がありますが、この方が実力がつきます。
- ・ 講習会 2日間の講習で法規6時間、無線工学4時間の授業のあと修了試験に合格すると免許が取れます。受講料は、18歳以下なら9,850円です。（一般は22,750円）

(4) いろいろな楽しみ方

アマチュア無線は King of hobby とも言われます。人それぞれに、自分に向いたものを見つけ、様々な角度から楽しめるからです。おおざっぱに分けても、話し言葉での通信、文字での通信、符号での通信、人工衛星通信などがあります。送信機や受信機、アンテナを自分で組み立てるのが得意な人もいます。さまざまな実験をして、新しいことを知るのが好きな人もいます。今使われている短波や超短波は、はじめは、アマチュア無線家が発見したものなのです。若いみなさんも、何か世界にないものを発見しませんか。

三ヶ根通信ボランティア